

3-3

演題	若者が物申す！第2弾
副題	～私たちのみている未来～

メンター
心理的安全性

法人名	社会福祉法人 神奈川県匡済会
施設名	白寿荘

発表者名 (職種)	千葉 麻美子 介護職員
共同発表者	和田 英大
共同発表者	北村 美月
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	横浜市泉区和泉町 6181
TEL	045-803-6457
FAX	045-803-7955
メールアドレス	m-chiba@kyosaikai.jp
URL	https://kyosaikai.jp/service/

今回の発表施設 またはサービスの 概要	・特養白寿荘(1993/12 開所。入所 72 名、短期 8 名、通所介護)、併設：養護白寿荘(1963 年開所。1993/12 移転)、法人本部。 ・基本理念「あらゆる人の尊厳を守り常に人が人として文化的生活を営めるようその自立に向けた支援に努める」
---------------------------	---

研究の目的、PR ポイント

(研究の目的)

- 若手職員が安心して働くことのできる環境づくり
- 組織の内的成長を促進する方法を見出す (PR ポイント)
- 職場に人材の定着が継続されないのはなぜか？
現場で私たちが取り組めることに挑戦した結果を若者の言葉でリアルに語る。
- 平成生まれの若手職員と昭和生まれの上司の間には世代間ギャップがあるのではないか？
その橋渡しには中堅職員の活躍が欠かせないのではないか。
組織内の全世代が役割をもって活躍できる法人を目指して、私たちは物申す。

取り組んだ課題

- 1) 若手職員の定着率を高める
- 2) 若手職員の活躍できる場をつくる

具体的な取り組み

- 1) メンターによる振り返り面談の実施
 - 面談対象：新規・中途の若手職員
 - 実施開始期間：2022 年 9 月～
 - 現状の対象者数：特養 2 名、養護 4 名
- 2) 若手職員へのサポート体制
 - 各種研究大会への参加
 - ・関東ブロック研究総会(2024/10/03-04 開催)
演題名：「若者が物申す！—1～2 年目職員が感じている現場のリアル—」
 - ・よこはま高齢者福祉研究大会(2024/10/29 開催)
演題名：「若手職員へのメンタルフォローを通して私たちがみたく未来—併設型施設の強みを活かし、事業の枠を超えたシステムの確立に向けて—」
 - 若手職員意見交換会
 - ・第 1 回(2024/07/30 開催)
テーマ「①ストレス発散方法、②入社して間もない頃どのように仕事を覚えたか？」
 - ・第 2 回(2024/12/18 開催)
テーマ「職場に違和感を感じていることとその

改善策・職場の良いところ」

- ・第 3 回(2025/04/18 開催)
テーマ「若手のビジョンと行動宣言～1 年後の今頃、どんな職員でありたいか？～」

活動の成果と評価

(成果)

- 面談対象者へのアンケート結果(2024 年実施)
「大変役に立っている」(66.7%)、「役に立っている」(33.3%)となっている。理由に、ストレス軽減、リフレッシュ、成長に繋げる機会が挙げられた。
- 職場の定着率 80%(2025 年 4 月末時点)
- 若手職員のリアル

(評価)

『若年者雇用実態調査※3』では、職業生活の満足度に関して、「職場の人間関係、コミュニケーション」(57.3%)、「仕事の内容・やりがい」(55.2%)が上位として挙げられている。
若手職員にとって心理的安全性を高める関わり方が重要であり、活躍できる場があることは、若手職員が求めていることと大きく差異がないことがわかり、職場の定着率にも関係するのではないかと考えられる。

今後の課題

- 1) に対して
 - ・メンターの養成とメンターのシステム化
 - ・新たな関わり方の模索
→1 対 1 面談方式以外の方法を見つける
 - 2) に対して
 - ・活動の継続方法
 - ・横のつながりづくり
→事業所ごとから法人全体への波及
- ★全世代が活躍する法人を目指すには何が必要か？

参考資料など

- ※1 厚生労働省「令和 4 年 雇用動向調査」
- ※2 公益財団法人介護労働安定センター「令和 5 年度 介護労働実態調査」
- ※3 厚生労働省「令和 5 年 若年者雇用実態調査」